

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	一宮警察署庁舎(立体駐車場・EV棟)	階数	地上3階
建設地	愛知県一宮市本町1丁目6-9、6-10	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年11月 予定	評価の実施日	2023年11月18日
敷地面積	4,435 m <sup>2</sup>	作成者	岩月亮士
建築面積	1,021 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月18日
延床面積	3,026 m <sup>2</sup>	確認者	鈴木雄一郎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	77%
④上記+	77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

機能性	N.A.
耐用性	3.3
対応性	2.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.3

生物環境	2.0
まちなみ	2.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

建物外皮の	N.A.
自然エネ	N.A.
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.0
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

地球温暖化への配慮	3.9
地域環境への配慮	2.6
周辺環境への配慮	3.0

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <table border="1"> <tr><td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td><td>10.2%</td></tr> <tr><td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td><td>0.0%</td></tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.2%	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	10.2%				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
警察署庁舎(立体駐車場・EV棟)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>												2.5
<b>Q1 室内環境</b>												-
<b>1 音環境</b>												-
1.1 室内騒音レベル												3.0
1.2 遮音												-
1 開口部遮音性能												-
2 界壁遮音性能												3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0
1.3 吸音												-
<b>2 温熱環境</b>												-
2.1 室温制御												3.0
1 室温												3.0
2 外皮性能												3.0
3 ゾーン別制御性												3.0
2.2 湿度制御												3.0
2.3 空調方式												3.0
<b>3 光・視環境</b>												-
3.1 屋光利用												3.0
1 屋光率												3.0
2 方位別開口												3.0
3 屋光利用設備												3.0
3.2 グレア対策												5.0
1 屋光制御												3.0
3.3 照度												3.0
3.4 照明制御												3.0
<b>4 空気質環境</b>												-
4.1 発生源対策												3.0
1 化学汚染物質												3.0
4.2 換気												3.0
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												3.0
3 取り入れ外気への配慮												3.0
4.3 運用管理												3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視												3.0
2 喫煙の制御												3.0
<b>Q2 サービス性能</b>												2.9
<b>1 機能性</b>												-
1.1 機能性・使いやすさ												3.0
1 広さ・収納性												3.0
2 高度情報通信設備対応												3.0
3 バリアフリー計画												3.0
1.2 心理性・快適性												3.0
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0
2 リフレッシュスペース												3.0
3 内装計画												3.0
1.3 維持管理												3.0
1 維持管理に配慮した設計												3.0
2 維持管理用機能の確保												3.0
<b>2 耐用性・信頼性</b>												3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振												0.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0
2 免震・制震・制振性能												3.0
2.2 部品・部材の耐用年数												0.3
1 躯体材料の耐用年数												3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												-
6 主要設備機器の更新必要間隔												-
2.4 信頼性												0.1
1 空調・換気設備												3.0
2 給排水・衛生設備												3.0
3 電気設備												3.0
4 機械・配管支持方法												3.0
5 通信・情報設備												3.0

<b>3 対応性・更新性</b>					0.4	2.5	0.48	-	-	-	2.5	
3.1 空間のゆとり			②	天井レス	0.3	1.0	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり								1.0	1.00	-	3.0	-
2 空間の形状・自由さ							3.0	-	-	-	3.0	-
3.2 荷重のゆとり							3.0	3.0	0.31	-	3.0	-
3.3 設備の更新性							0.3	3.4	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性							3.0	-	-	-	-	-
2 給排水管の更新性							3.0	-	-	-	-	-
3 電気配線の更新性							3.0	5.0	0.20	-	-	-
4 通信配線の更新性							3.0	-	-	-	-	-
5 設備機器の更新性							1.0	3.0	0.40	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.40	-	-	-		
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.57	-	-	-	2.3	
1 生物環境の保全と創出			独自③			2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④			2.0	0.40	-	-	-	2.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>					0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			3.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50	-	-	-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	-	3.7	
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40	-	-	-	4.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用					3.0	-	-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.52	3.0	5.0	0.71	-	-	-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価								-	-	-		
4.1 モニタリング						3.0	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制						3.0	-	-	-	-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30	-	-	-	3.0	
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0	
1.1 節水					3.0	-	-	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					1.0	3.0	1.00	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0	
2.1 材料使用量の削減						3.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-		3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-		3.0	1.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	スケルトンインフィルを採用	3.0	5.0	0.24	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1 消火剤						-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	1.00	-	-	-		
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-		
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30	-	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率77%		3.9	0.33	-	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5	
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の使用なし		5.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善						3.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.33	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制						-	-	-	-	-		
3 交通負荷抑制			独自	余裕のある駐車場及び来庁舎と職員の動線分離		5.0	0.33	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制						1.0	0.33	-	-	-		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音			独自			3.0	1.00	-	-	-		
2 振動			独自			-	-	-	-	-		
3 悪臭						-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制						3.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70	-	-	-		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	-		

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

宮城県庁舎(立体駐車場・EV棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:10.2%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 一宮警察署庁舎(立体駐車場・EV棟)

計画上の配慮事項	
総合	①公用車エリアへの侵入防止を徹底したセキュリティ計画 ②騒音や光害等によるの周囲への影響に配慮 ③混雑緩和・緊急時の出勤に配慮した動線計画
Q1 室内環境	なし
Q2 サービス性能	重要度係数1.25とし、天井レスにより設備の更新性を容易にする
Q3 室外環境(敷地内)	なし
LR1 エネルギー	評価結果BEI=0.52、1.00以下を達成
LR2 資源・マテリアル	スケルトンインフィルを採用することで、部材の再利用性を高める
LR3 敷地外環境	余裕のある駐車場と来庁者と職員の動線分離を行い、駐車への負担や混雑を防止。また、燃焼機器の使用はなし
その他	なし